

2010年9月10日

社団法人 日本建築学会
会長 佐藤 滋 殿

ダイビル株式会社
代表取締役社長 佐藤 博之



「新ダイビルの保存に関する要望書」について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、弊社の事業につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、過日に頂戴しました標記要望書につきましては、新ダイビルの歴史的価値を高く評価いただくとともに、保存に関する技術的支援についてご協力いただける旨のお申し出を頂戴し、誠にありがとうございます。

要望書にも記載されておりますように、新ダイビルは建築家村野藤吾の傑作のひとつであり、デザインの美しさだけでなく、屋上には大規模な樹苑を配するなど、環境への取り組みを先駆的に行なった価値の高い建築物であると認識しております。

新ダイビルは1958年の南館竣工以来、50年以上にわたり弊社の旗艦オフィスビルとしてその役割を担ってまいりました。その間、建築設備の老朽化に対し、修繕や改修を施しながら一線級のテナントビルのグレードを保つよう最大限努力してまいりましたが、建物構造上、改修による機能の維持・向上にも限界があり、最新機能を導入したオフィスビルが相次いで建設される中で、防災等安全性の観点からも、テナントビルとして競争力を維持し続けることは大変難しい状況にあることから、建替えざるを得ないと判断した次第でございます。

建替後のビルにつきましては、新ダイビルの環境への姿勢を継承し、出来る限り緑化に力を注ぐなど、さらなる環境建築を目指してまいります所存でございますので、何卒事情ご斟酌の上、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

敬具